

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2025年5月27日 (Vol.189)

誰かに話したくなる地球の大自然、絶景と俳句 第3回

誰かに話したくなる地球の大自然、絶景と俳句 第3回



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cinque_Terre_DSC_6954_\(14250460371\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cinque_Terre_DSC_6954_(14250460371).jpg)

イタリア北西部のリグーリア海岸にある5つの村チンクエ・テッレの村の1つマナローラの景観

前々回から、驚きの自然現象、神秘的な風景、雄大な海や山、色鮮やかな大地など毎回3テーマずつ感動を与えてくれる世界の風景とそれに合った俳句をお届けしています。

第3回の今回は、

1. ニュージーランドの—縦に割れたりんごのような—スプリット・アップル・ロック—
2. アフリカ南部のヴィクトリアの滝にかかる月虹—水煙と月の光によって発生する幻想的な光景—
3. イタリア、リヴェラの東側にある複雑な海岸に点在する美しい村々—
—チンクエ・テッレの景観と希少な白の最高級ワイン「シャケトラ」を産み出す断崖絶壁の
だんだん畑—

をご紹介します

関連季語とともに楽しみください。

1. ーりんごの形をした大きな岩を
真っ二つに割ったのは誰？
スプリット・アップル・ロック



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Split_Rock.jpg

スプリット・アップル・ロック

ニュージーランドには印象的な奇岩が数多く見られます。
その中でも、今回紹介する「スプリット・アップル・ロック」は見事な岩の造形です。

ニュージーランド南島のアペル・タスマン国立公園は紺碧の海と黄金色のビーチが特徴的で、トレッキングやマリンスポーツが盛んな場所。
そのタスマン湾に、スプリット・アップル・ロックという奇岩があり、その名のとおり、「縦に割れたりんご」のような形の岩の塊です。

その断面はとてもなめらかで、表面もツルツルしていて、人工的に作られたアート作品かオブジェのようにも見えます。

先住民マオリ族の間では、神様がこの岩の所有権をめぐる争い、真っ二つに割ることにしたと伝えられています。

しかし、これは自然にできたものです。
もともと、この岩石はひとつの丸い花崗岩の岩塊で、それが自然に割れて二つになりました。

岩塊の亀裂に水が入り込んだ状態で7万～1万年前の最終氷河期を迎え、割れ目に入り込んだ水が凍って体積が膨張。
その力によって、いつしか岩塊が割れ、現在のような姿になったと考えられています。

日本でも、柳生石舟斎が天狗と試合中に一刀両断に断ち切ったとの伝説がある奈良県柳生町の「一刀石」、兵庫県の破磐（はばん）神社の「大磐石（われ岩）」など、断ち割れた巨石があります。

また、岩手県盛岡地方裁判所の構内にある一本桜は、巨石が落雷を受けできた割れ目に桜の種子が入り込み成長したと言う伝承が残っていて、桜の根が岩石を断ち割ったように見えることから「石割桜」と呼ばれています。

巨石が割れるのは、一種のロマンのようなもので、民族や地域の神話とも結びついているようです。

ここでは、林檎（りんご）に関する句を季節順に紹介します。

林檎（りんご）の花、花林檎 晩春

林檎はバラ科の落葉高木。

花は4月から5月に、ほのかに紅をおびた5センチ位の白色の五弁花をつけます。

花の香りは、夜になるといっそう芳香を放ち、花粉は蛾によって運ばれます。

花が咲いた林檎畑が一面に広がる景色は印象的です。

花林檎枝先に宙（そら）あふれをり

上野さち子

青林檎（あおりんご） 晩夏

青林檎は早生（わせ）種で7月頃から出まわります。

固くて、甘味よりも酸味の勝った果肉は、囓（かじ）るとき、刃を入れるときの感覚に、新鮮な手ごたえをよびます。

刃（は）を入れて拒（こぼ）む手ごたへ青林檎

鷹羽狩行

林檎（りんご） 晩秋

林檎は春に可憐な花を咲かせ、夏に小さな実をつけ、秋には収穫の時期を迎えます。

味や香り、色つやとどれをとっても見事で、果物の王としてふさわしい果実です。

「1日1個の林檎は医者を選ばせる」ということわざ通り、カリウムやカルシウム、鉄分、食物繊維、ビタミンCなど滋養にも優れていて、便秘改善や疲労回復など多くの効能が期待されています。

あめつちや林檎の芯に蜜充し

竹田伸一

冬林檎（ふゆりんご） 寒林檎（かんりんご） 三冬

林檎の収穫は11月いっぱいですが、それを冬から春にかけて貯蔵したものを冬林檎、寒林檎とよびます。

最近では、長期間の需要に対応するために、貯蔵の技術も進み、色、香りともに採りたてと変わらないものが、冬の食卓を賑わわせてくれます。

「ふじ」が代表的な品種です。

不平あらば壁に擲（なげう）て寒林檎

日野草城

2. ヴィクトリアの滝にかかる月虹 —水煙と月の光によって発生する 幻想的な光景—



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lunar_Rainbow_3_-_ORION_L_-_Victoria_Falls_-_Calvin_Bradshaw_3.jpg

ヴィクトリアの滝の水しぶきにかかる月虹（ザンビア側）

アフリカ南部、ジンバブエとザンビアの国境で、空高く舞い上がった水煙が豪雨のように降り注ぎ、耳をつんざく轟音ははるか彼方まで響き渡る巨大な滝があります。現地語では、Mosi-oa-Tunya（モシ・オア・トゥンヤ、雷鳴の轟く水煙）と呼ばれ、畏怖の対象となっています。

1855年、この滝に到達した探検家デビッド・リビングストンが、母国イギリスの女王にちなんで「ヴィクトリア」と命名しました。

滝幅約 1700 m、落差約 108 mの大瀑布で、南米のイグアス、北米のナイアガラと並ぶ世界三大瀑布の一つです。

滝壺へと落下する膨大な水が、猛スピードで落下し、山火事と見紛うような水煙が 800 ～ 1000 mほど立ちのぼっていて、時には虹がかかります。

虹は太陽光が空気中の水滴粒子に当たって折れ曲がり、分かれることで人の目に映るものです。

太陽の反対側の空や、噴水の水滴のなかに弧を描くようにかかり、内側から紫、藍、青、緑、黄、橙、赤の七色が並びます。

それと同じ原理で、月の光によって虹が発生することもあります。これは月虹（げっこう）、ルナ・レインボーと呼ばれる現象です。

月虹が発生する条件としては、月の光量が十分であること、適度な湿度と水滴、虹が見えるくらいの明るさなどがあり、それらをクリアするのは簡単ではありません。実際、観測できる機会は極めて稀なのですが、条件さえ合えば各地で見ることができます。

ここ、ヴィクトリアの滝はその月虹の名所です。

滝の水煙に月の光が反射することにより、月虹が発生しやすくなっています。

滝の水量が多い3月から7月にかけての満月の夜とその前後の数日間、ヴィクトリアの滝を訪れれば、月虹を観ることができるかもしれません。

ここでは春夏秋冬、それぞれの季節にかかる虹を詠んだ句を紹介します

春の虹（はるのにじ）

二十四節気の清明の三候に「虹始めて見（あらわ）る」とあり、立春（2月4日頃）以後に現れる虹を指します。

春の驟雨（しゅうう）がやんで、雲間から洩れるやわらかな光の中に思いがけず浮かび出る春の虹は、淡くすぐに消えてしまいますが、夏の虹よりもあでやかで美しく印象深いものがあります。

野の虹と春田の虹と空に合ふ

水原秋櫻子

虹（にじ） 三夏

大空に虹が生まれるのは、夕立ちなどのある夏に多いことから、単に「虹」といえば夏の季語です。

朝、西の空にかかる虹は「朝虹」と呼ばれ、雨を招くもので、夕方に、東の空にかかる虹は「夕虹」といい、晴れの兆しといわれています。

たちまちのうちに消えてしまう、はかない光景に人々は喜び、ヨーロッパでは愛や祝福、神々の使者などをイメージするものとされています。

ゆけどゆけどゆけども虹をくぐり得ず

高柳重信

秋の虹（あきのにじ）

虹は四季を通して見られますが、夕立の通り過ぎた空に見られるものが鮮やかなため夏の季語とされています。

秋の虹は、色も淡く、いつの間にか、はかなく消えてゆく感じがあります。

掲句はその雰囲気をよく言い表しています。

秋の虹手を振ればはや消えており

永島靖子

冬の虹（ふゆのにじ）

冬は時雨の後に虹がかかります。

これを時雨（しぐれ）虹とも呼びます。

冬は空気が澄んでいることから虹が鮮明に美しく見え、また、一日中太陽高度が低いので、真昼でも虹がかかることがあります。

その希少性からか、夏の虹よりも尊ばれます。

神は地上におはし給はず冬の虹

飯田蛇笏

3. チンクエ・テッレ ー希少な白の最高級ワイン「シャケトラ」を 産み出す断崖絶壁のだんだん畑ー



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cinque_Terre_DSC_6954_\(14250460371\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cinque_Terre_DSC_6954_(14250460371).jpg)

イタリア北西部のリグーリア海岸にある5つの村チンクエ・テッレの村の1つマナローラの景観

地中海のリゾートとして有名なイタリア北西部のリヴィエラ。
その中心都市ジェノヴァの東側には、断崖に小さな入江がいくつも見え隠れする複雑な海岸線が続いています。
その険しい海岸沿いにあるパステルカラーの家々が並ぶのがチンクエ・テッレの村々です。

チンクエ・テッレは、11世紀に要塞都市として建設されました。
以降 1000年にわたって、隣の村との往来は船で行われていて、陸路で孤立したこれらの村々には、今も往時のおもかげが色濃く残っています。

チンクエ・テッレとは、イタリア語で「5つの土地」という意味です。

名前のとおり、およそ 20km の間に、リオマッジョーレ、マナローラ、コルニリア、ヴェルナツァ、モンテロッソの 5つの村があります。

このあたりは平地がなく、土地も痩せていて、お世辞にも農業に向いているとは言えません。
しかし、住人たちは切り立った断崖の岩盤を砕いて石垣を築き、岩盤を砕いた際に出た砂を土壌にして畑をつくりました。

数 100 年かけて築かれてきた石垣の総延長距離は、6700km に及び、これは日本列島を往復できる距離です。

そんなチンクエ・テッレの痩せた土地に根付いた作物が葡萄です。
住人たちはこの葡萄からワインを醸造して生活を成り立たせました。
ここで育つ葡萄はあまりたくさん実をつけません。
しかし、そのぶん味が凝縮したコクのあるワインが産まれました。

ここで多く栽培されている品種はボスコというチンクエ・テッレの土着品種です。
だんだん畑の弱酸性の土壌にマッチして、蜂蜜のような甘みを持った葡萄が生産され、最高級の白イン、シャケトラがつくられているのです。

ワイン醸造に最適とされるヴィニフェラという品種を栽培する場合、中性～弱アルカリ性の土壌が好ましいといわれています。

チンクエ・テッレの土壌は弱酸性の土壌ですが、ボスコに関してはちょうどいいそうです。

16 世紀の古文書『ジェノヴァ年代記』には「チンクエ・テッレは急斜面で、不毛の土地ながら、人々が知恵を絞って葡萄を栽培し、ワインを作っている。多くの王侯貴族たちが、そのワインをテーブルに置くことを大きな誇りにしている。」と記されています。

ここでは「ワイン」「葡萄酒」＋春夏秋冬の季語で詠まれた句を選びました。

朧夜やにごりワインのコルク抜く

吉原文音

季語「朧夜（おぼろよ）」で三春

ぼんやりと霞んだ春の月の夜のこと。
空気中の水蒸気によって月がほのかにぼやけて見えるさまは、春ならではの濃密な情緒を感じさせてくれます。

夏めくや葡萄酒の白冷やしをり

角川春樹

季語「夏めく」で初夏

夏真っ盛りという時期にはまだ早いですが、木々や生き物、また人間の生活のあれこれにも、夏らしい趣が増してきたと感じられる頃をいいます。

葡萄酒醸す地下へ木の段黒びかり

松井桂子

季語「葡萄酒醸す（ぶどうしゅかもす）」で仲秋

収穫した葡萄を、枝から採り、潰して搾り、よく乾燥させた樽や桶で発酵させ醸造すること。

かつては、樽や桶に収穫した葡萄を房のまま入れ、足で踏んで潰していました。

今は機械化が進み、圧搾機によって果汁を搾り、酵母を加えて発酵槽で発酵させ醸造、澱（おり）を除いたあと、瓶に詰めて販売されます。

古葡萄酒聖夜をすごし又古ぶ

能村登四郎

季語「聖夜」で仲冬

12月25日、クリスマス。

イエス・キリストの降誕を記念する祝日。

キリスト生誕の祝祭と北ヨーロッパの冬至の祭りとが融合したものといわれます。

「聖夜」は厳密にはクリスマスイヴですが、俳句では「クリスマス」も「クリスマスイヴ」も同じように詠まれます。

私も詠んでみました。

沖膾(おきなます)夕凧(ゆうなぎ)わたりワイン酌(く)む

白井芳雄

季語「沖膾」で三夏

沖で釣った生きのいい魚を、そのまま船上で調理したもの。

鱈(あじ)、鱈(きす)、鱈(すずき)、鰯(いわし)、さよりなどを刺身、たたきにして蓼(たで)、紫蘇(しそ)などを薬味にして食べます。

主な参考文献、出典：著者 詩歩

『死ぬまでに行きたい！世界の絶景』（三オブックス）（2013年）
ISBN978-4-86199-611-5

執筆 山本厚子

『地球一周 365日 世界遺産絶景の旅』（いろは出版）（2021年）
ISBN978-4-86607-184-8

著者 円城寺守

『366日 世界の大自然』（三オブックス）（2022年）
ISBN978-4-86673-319-7

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。
当コラム諸事情により今回が最終回となりました。
永い間ご愛読いただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町2-18 南森町共同ビル 3F

TEL：06-6358-0141 FAX：06-6358-0134 E-mail：info@tic-co.com